

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	株式会社IHIターボ							
代表者名	氏名	満永 敬哉			役職名	代表取締役社長		
主たる事務所の所在地	長野県木曾郡大桑村須原1417							
主たる事業の分類	大分類	E 製造業						
	中分類	3113 自動車部分品・附属品製造業						
主たる事業の概要	車両用ターボチャージャー製造							
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者						
原油換算エネルギー使用量	5391	kl	その他ガス排出量合計	0	t-CO ₂	自動車の台数	33	台

2 計画期間及び報告対象年度

計画期間	26	年度	～	28	年度	報告対象年度	28	年度
------	----	----	---	----	----	--------	----	----

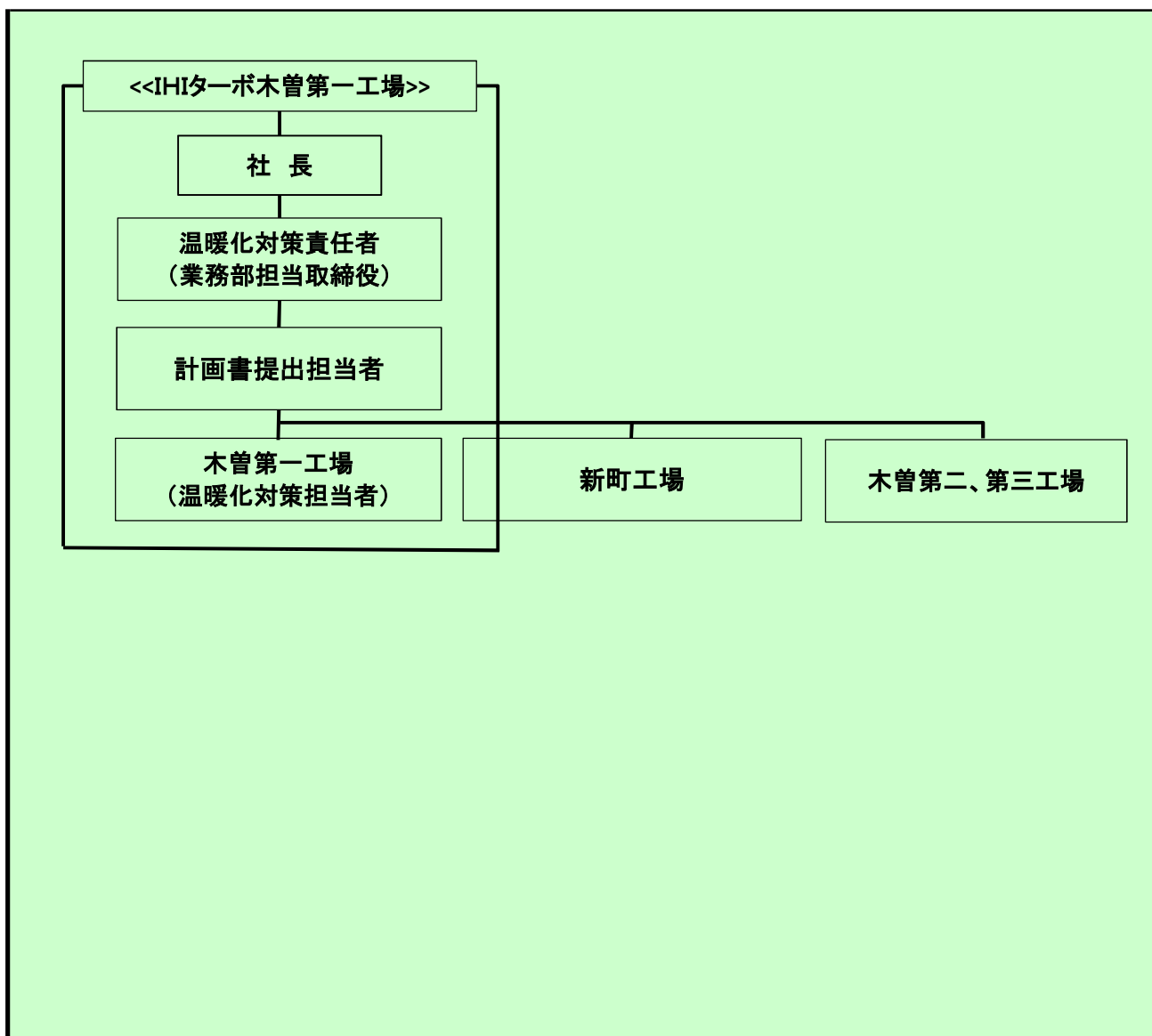
3 計画書（報告書）の公表方法等

<input checked="" type="checkbox"/>	ホームページ	https://www.ihico.jp/iti
<input type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

1. 廃棄物に関する3R(Reduce, Reuse, Recycle)を促進する。
2. 省エネルギー及び省資源活動を推進する。

5 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	12,585	t-CO ₂	生産数量	3,344	単位	千個	
25年度	調整後排出量	9,349	t-CO ₂	基準原単位	3.76	t-CO ₂ /	千個	
目標年度	目標排出量	12,207	t-CO ₂	目標原単位	3.65	t-CO ₂ /	千個	寄与度の合計から求めた目標削減率※
28年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	2.99	%		
目標設定に関する説明	第二種指定工場として前年度比1%削減し3年で3%削減を目標とする。							※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	12,109	部分品	生産数量	3,206	単位	千個	
	調整後排出量	12,022	t-CO ₂	原単位	3.78	t-CO ₂ /	千個	寄与度の合計から求めた目標削減率※
26年度	削減率	3.78	%	削減率	-0.54	%		
排出量等の増減理由	排出量は、下記理由によりH25年度比で476tの削減となった。 1. 木曾工場 ①電気使用量の削減 ②A重油の使用廃止 2. 新町工場 ①LPG使用量の削減							
第二年度	排出量	10,504	t-CO ₂	生産数量	2,360	単位	千個	
	調整後排出量	10,447	t-CO ₂	原単位	4.45	t-CO ₂ /	千個	寄与度の合計から求めた目標削減率※
27年度	削減率	16.53	%	削減率	-18.36	%		
排出量等の増減理由	排出量は、下記理由によりH25年度比で2,081tの削減となった。 1. 木曾工場 ①第一工場の天井灯を水銀灯からLED型蛍光灯への切替え。 2. 新町工場 ①チラー排気熱の有効利用で冷暖房の効率化(LPG使用量の削減) ②休日のコンプレッサー運転停止(電力使用量の削減) 3. 全社 ①夏期、冬期のエアコン設定条件の順守②不要な照明の消灯 ③人感センサー式照明の随時導入 ④生産数量の減少に伴う電力使用量の減少							
第三年度	排出量	11,093	t-CO ₂	生産数量	2,860.00	単位	千個	
	調整後排出量	11,012	t-CO ₂	原単位	3.88	t-CO ₂ /	千個	寄与度の合計から求めた目標削減率※
28年度	削減率	11.85	%	削減率	(3.20)	%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由	排出量は、下記理由によりH25年度比で1,492tの削減となった。 1. 木曾工場 ①第一工場の天井灯を水銀灯からLED型蛍光灯への切替え。 ②第一工場、窒化処理工程の廃止 2. 新町工場 ①チラー排気熱の有効利用で冷暖房の効率化(LPG使用量の削減) ②休日のコンプレッサー運転停止(電力使用量の削減) 3. 全社 ①夏期、冬期のエアコン設定条件の順守 ②不要な照明の消灯 ③人感センサー式照明の随時導入							

様式1号
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	0	t-CO ₂			単位		
25年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /		
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
年度	目標削減率		%	目標削減率		%		
目標設定に関する説明	該当せず							※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由								

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	121	t-CO ₂			
25年度						
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
目標設定に関する説明	該当せず					
第一年度	排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
排出量等の増減理由						
第二年度	排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
排出量等の増減理由						
第三年度	排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
目標の達成状況及び排出量の増減理由						

7 重点対策の実施状況

段階	連番	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I、II	1	燃料使用量等の定期的な把握						
	2	エコドライブの励行						
III、IV	—	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	対策内容	計画		実績	
			実施 予定年 度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	320303 熱媒体の漏えいに係る保全管理	H26		H26	42
2	エネ起	360703 コンプレッサーの運転管理	H26		H27	40
3	エネ起	360704 コンプレッサーの吸気管理	H26		H27	40
4	エネ起	360705 ポンプ、ファン、ブロワー、 コンプレッサー等の保全管理	H26		H26	42
5	エネ起	330201 空気調和の管理			H26	42
6	エネ起	380702 照明設備の保全管理			H27	35
7						
8						
9						
10						

9 自然エネルギー源利用設備等の導入状況

34

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度

10 クレジット等に関する取組状況

クレジットの種類	単位	基準年度	計画期間	第一年度	第二年度	第三年度
グリーンエネルギー証書 (電気)	tCO ₂					
グリーンエネルギー証書 (熱)	tCO ₂					
J-クレジット制度により 創出されたクレジット	tCO ₂					
県が認証したクレジット	tCO ₂					
電気の利用に伴うもの	tCO ₂	3,236		87	57	81
低炭素電力の利用	tCO ₂					

様式1号
(総括票)

1.1 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出状況 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上								
1,500k1以上 3,000k1未満	2	8,774	2	8,207	2	7,015	2	7,671
1,500k1未満	2	3,811	2	3,902	2	3,489	2	3,422
合計	4	12,585	4	12,109	4	10,504	4	11,093

1.2 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出状況 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂	0	0	0	0
CH ₄	0	0	0	0
N ₂ O	0	0	0	0
HFC	0	0	0	0
PFC	0	0	0	0
SF ₆	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

1.3 次世代車使用台数及び導入計画 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車				
電気自動車				
燃料電池自動車				
クリーンディーゼル自動車				
その他	1	1	1	1
合計	1	1	1	1
自動車総数	34	33	34	33
次世代車導入割合	2.9	3	2.9	3

様式1号
(総括票)

1.4 中小企業支援

区分	内容
中小企業への省エネ診断	該当せず
その他	

1.5 交通対策

区分	実施内容
ノーマイカー通勤	マイカー通勤率を把握している。(84.5%) マイカー通勤の基準を設けている。(通勤距離2Km以上)
公共交通機関の利用促進	該当せず
来客者の交通対策	該当せず
物流の合理化	特になし

1.6 環境マネジメントシステム導入状況

番号	名称	導入年
1	ISO14001	2002年
2		
3		

1.7 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度実績	環境管理委員会を4回/年開催。各部門で環境管理目標を設定し活動。
第一年度実績	1. 木曾第1工場では、アルカリ性廃液を排水処理装置で処理後、河川へ放流していたが放流をやめ産廃業者回収へ変更した。河川放流量は、80,000m ³ /月⇒0m ³ /月となった。 2. 新町工場では、①上水使用量の削減(H25年度6,244m ³ ⇒H26年度5,448m ³ 、②環境に考慮した製品の購入(切れた蛍光灯からLEDへ順次変えていく)に取り組んでいる。
第二年度実績	1. 木曾第1工場では、廃液(アンモニアを硫酸で中和、河川放流基準以下)を河川へ放流していたが、放流をやめ河川の汚染源をなくした。河川放流量は、31,000m ³ /月⇒0m ³ /月 2. 新町工場では、コピー紙使用削減としてコピー機と従業員カードを連動させた。また、切れた蛍光灯からLED型蛍光灯へと随時切り替えている。
第三年度実績	1. 木曾第1工場では、窒化工程の廃止により、P R T R法に定められるジクロロメタンの使用がなくなり、大気への放出を無くす事ができた。 2. 一般可燃物とリサイクルペーパーとの分別を促進させ、一般可燃物排出量削減活動に取り組んだ。

1.8 自由記載欄

区分	内容	削減量(tCO ₂)
基準年度以前の取り組み	第二工場、第三工場、新町工場天井照明のLED化(H24年度)	304
その他	コンサルタントの提案事項であったチラー排熱排出用のダクトの向きを変え、空調効率を向上させた。	